

中部森林管理局「国有林の地域別の森林計画等検討会」概要

開催日時 及び場所	平成31年2月26日（火） 14:30～17:10 中部森林管理局大会議室
委員	<p>赤堀 楠雄（林材ライター） 大森 清孝（飛騨生態調査研究室代表） 岡野 哲郎（信州大学農学部教授） 加藤 正吾（岐阜大学応用生物科学部准教授） 欠席 加藤 博俊（設楽測量設計株式会社代表取締役 （環境省自然公園指導員））</p> <p>藤沢 茂（岐阜県木材協同組合連合会副会長） 柳原 正紀（富山県森林組合連合会代表理事副会長・専務） 山崎 真理子（名古屋大学大学院生命農学研究科准教授） 山下 眞佐子（富山県自然保護協会理事） 油井 郁恵（南佐久南部森林組合専務理事） 横井 秀一（岐阜県立森林文化アカデミー教授）</p> <p>検討委員11名（うち出席10名）</p>
議事内容	<p>○ 平成30年度に策定する地域管理経営計画書（案）及び国有林野施業実施計画書（案）について（森林計画区：庄川、千曲川上流、揖斐川）</p> <p>○ 平成30年度に変更する地域管理経営計画書（案）及び国有林野施業実施計画書（案）について（森林計画区：神通川、千曲川下流、中部山岳、木曾谷、宮・庄川、飛騨川、長良川、木曾川）</p> <p>○ 平成30年度の中部森林管理局の取組について</p> <p>○ その他</p>
委員からの 主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 千曲川上流計画区の主伐量が現計画の倍以上と増えるが、年齢配置の平準化を図るため、主伐・再造林を進めることが大切である。 ・ 分収造林の主伐時期については、契約者の収益性向上の観点から、伐期延長等について弾力的に対応することが重要である。 ・ レクリエーションの森については見直しにより箇所が減るが、国民が森林を訪れ森林を理解するのは大切なことであり、今後ともPRや施設の適切な管理をお願いしたい。 ・ レクリエーションの森を廃止した後も、遊歩道等利用されている施設周辺の森林に関しては、なるべく手を付けず自然が保全されるようお願いしたい。 ・ 富山県南砺市の水無湿原は、土砂の流入や外来植物の侵入が見られるので必要な対策を今後お願いしたい。 ・ カラマツの長伐期化では芯腐れが発生しやすいとも言われているので、プレミアムカラマツをブランドとして継続していくには、その対策も含めたカラマツの育林技術の向上が必要である。信州カラマツは民有林も含めた長野県共通のブランドであるので、これらについて県とも連携しながら取り組んでほしい。 ・ きのご用原木として、市場では広葉樹材が不足している状況にある。 ・ 伐採・造林一貫作業については、低コスト化を図るのが目的と思うが、あまり低コスト化にこだわると、林業従事者が減少する中で人材確保、人材育成に事業体は苦勞することにも留意する必要がある。 ・ マツクイムシ被害が長野県内でも多く見られるが、一部の昆虫では30年間に生息域の標高が上がってきている状況にある。 ・ 森林計画書（案）のポイントに林業の成長産業化への貢献とあったが、成長産業化を進めるためには生産される木材の出口対策が重要であり、しっかり取り組んでほしい。